

議会だより

「美郷がいちばん、好きです美郷」



すこ〜し
すまして!

希望の春。

各小学校では入学式が行われました。
どきどき、わくわく、
笑顔かがやく今年度の新1年生は191人。
みんなの未来は美郷町の未来です。

主な内容

- P2~3 賛成多数で可決 ————— 3月定例会概要
- P4~5 政策経費を確保 ————— 18年度事業概要
- P6~9 どう使う、新年度予算 ————— 議案質疑
- P10~19 10人の議員が町政を質す ————— 一般質問
- P20 5人きょうだいそろって入学—キラリ美郷人

111億1,300万円を賛成多数で可決

—町民のだれもが住んでよかった、住みつけたいと思えるまちづくりをめざして—



3月定例会を、3月1日から9日までの9日間の会期で開きました▼今定例会では、平成十八年度一般会計当初予算と、国民健康保険特別会計など5特別会計の当初予算を審議したほか、十七年度補正予算や奨学資金条例の一部改正案など27議案を審議しました▼その結果、十八年度一般会計予算と職員の給与条例、奨学金条例を賛成多数で、その他の議案は全員賛成で原案のとおり決めました▼また、定例会冒頭に行われた松田町長の施政方針説明で「町民のだれもが住んでよかった、住みつけたいと思えるまちづくり」の十八年度目標が示されました▼一般質問は、10議員が町政を質し、陳情1件を採択しました。

一般会計当初予算

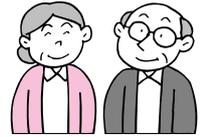
前年比5・36%減

平成十八年度一般会計 当初予算額は、前年度当初予算額に比較して6億3千万円、割合で5・36%減の111億1千300万円となりました。

をしています。

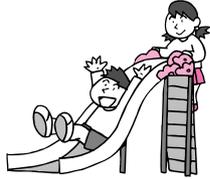
国庫支出金は、三位一体改革で削減され6億3千768万7千円（同比33・16%減）となりました。町税は、13億3千63万1千円（同比0・61%減）。町債は、残高に留意しながら適債性事業に充当することとして、14億9千460万円（同比2・31%減）としました。歳出では、人件費が最

町民一人あたりに 使用される予算額



高齢者福祉費

65歳以上
一人当り **75,955円**



児童福祉費

12歳以下
一人当り **355,335円**



保健・環境衛生費

町民
一人当り **25,995円**



農林水産業費

町民
一人当り **28,367円**



総務費

町民
一人当り **79,606円**



社会福祉費

町民
一人当り **21,429円**



町民医療費

75歳未満
一人当り **112,026円**



商工・観光費

町民
一人当り **15,337円**



土木・災害復旧費

町民
一人当り **36,541円**



消防費

町民
一人当り **17,649円**



学校教育費

児童生徒
一人当り **522,925円**



上下水道費

町民
一人当り **44,895円**



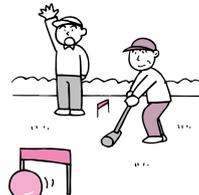
公債費

町民
一人当り **79,775円**



公園、社会教育費

町民
一人当り **15,655円**



体育振興費

町民
一人当り **11,695円**



老人医療、介護費

75歳以上
一人当り **846,698円**

また、特別会計での当初予算額は、国民健康保険特別会計が22億4千421万6千円（同比0・9%増）、老人保険特別会計が27億4千24万7千円（同比6・4%増）、簡易水道事業特別会計が4億803万5千円（同比53・5%減）、下水道事業特別会計が3億6千481万6千円（同比11・4%増）、農業集落排水事業特別会計が2億1千581万4千円（同比0・2%増）となり、一般会計と5特別会計を合計した平成十八年度当初予算総額は、170億8千612万8千円とな

170億8千612万8千円
一般・特別会計合計
合わせた義務的経費が、

りました。その他、平成十七年度一般会計補正予算では、4億722万円を追加して総額133億4千763万5千円とし、奨学資金条例の改正は、安定的な運営のため一部貸付額を減額し、貸与人数を予算の範囲内としたものです。

以下、平成十八年度事業の主な内容を4～5ページに、本会議での主な質疑を6～9ページに掲載します。また、平成十八年度予算の詳細につきましては、町広報『美郷』4月号の4～9ページをご参照ください。

も多く23億6千697万9千円（同比7・25%減）。これに、扶助費6億4千595万1千円（同比0・38%増）、公債費18億7千679万2千円（同比2・56%増）を合わせた義務的経費が、

予算全体の44%を占めました。

投資的経費は、普通建設事業費11億9千53万9千円（同比5・3%減）などで、予算全体の10・7%となりました。

十八年度事業

経常経費を抑制し
政策経費を確保

「経常経費の抑制に努めて政策経費を確保し、継続事業を優先しながら、地域の整備水準バランスを考慮した新規事業を行い、旧町村で未着手の課題解消にも留意」（施政方針より抜粋）した十八年度事業の主な内容を掲載します。



18・19年度で整備される御台所清水

総務費関連事業

- ▼行政機能強化事業
行政区活動や統合再編経費などに補助金を交付する 1千776万5千円
- ▼街なみ環境整備事業
御台所清水や回遊ルートなどを整備する 3千410万9千円

- ▼美郷の味販売交流促進事業
町内で生産される産物をブランド化し、首都圏への販売システム構築を図る 120万円
- ▼わか杉国体リハーサル大会事業
国体のリハーサル大会として、8月の全国都道府県対抗自転車競技大会、12月のパドミントン日本リーグ2部リーグ秋田大会を行う 7千237万3千円

民生費関連事業

- ▼温泉無料券交付事業
65歳以上の方に千畑温泉保養所の無料券を24枚交付する 514万6千円
- ▼福祉医療事業
医療費補助を、乳幼児は町単独

で未就学児まで拡大し、母子・父子家庭児童、高齢身体障害者や重度心身障害者(児)に全額支給する 1億7千719万円

- ▼放課後児童健全育成事業
子育て支援策として、小学校1～3年生までの児童を保護者が帰宅するまで保護する 1千295万4千円

衛生費関連事業

- ▼こころの健康づくり事業
心の健康問題の解消に向け巡回相談などを行う 54万3千円
- ▼成人総合検診事業
医療費軽減と町民の健康維持を目的に、各種検診を行う 9千850万2千円
- ▼最終処分場事業
仙南地区百目木一般廃棄物最終処分場の閉鎖整備などに 2千880万7千円

労働費関連事業

- ▼出稼労働者支援事業
出稼労働者の健康診断と互助会掛け金を一部負担

する 313万9千円

農林水産業費
関連事業

- ▼美郷ブランド確立事業
売れる米づくりを推進するため「美郷こだわり米」栽培農家に助成する 897万5千円
- ▼水田農業構造改革対策事業
「地域水田農業ビジョン」の実現を図るため、集落営農の組織化を推進する 2千73万9千円
- ▼畜産環境整備事業
循環型農業の確立のため、19年度完成する「堆肥センター」建設に向けた 3千138万9千円

商工費関連事業

- ▼地販地消推進事業
地域を一つの経済単位と捉え、地元製品の消費・購入拡大を目的に食の安全面も網羅する条例制定に向けた 35万円
- ▼ラベンダーまつり開催事業
町花のラベンダーが県内最大規模で咲く大

18年度当初予算

歳入

(単位：千円)

区 分	金 額
町 税	1,330,631
地 方 譲 与 税	410,000
利 子 割 交 付 金	10,100
配 当 割 交 付 金	1
株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	1
地 方 消 費 税 交 付 金	170,000
自 動 車 取 得 税 交 付 金	83,000
地 方 特 別 交 付 金	38,000
地 方 交 付 税	4,765,000
交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	4,500
分 担 金 及 び 負 担 金	60,000
使 用 料 及 び 手 数 料	140,181
国 庫 支 出 金	637,687
県 支 出 金	596,004
財 産 収 入	10,931
寄 附 金	1
繰 上 金	560,569
繰 越 金	490,000
諸 収 入	311,794
町 債	1,494,600
歳 入 合 計	11,113,000



昨年行われたサマージャズコンサート

歳出

(単位：千円)

区 分	金 額
議 会 費	157,947
総 務 費	1,364,572
民 生 費	2,183,466
衛 生 費	745,973
労 働 費	3,226
農 林 水 産 費	784,710
商 工 費	357,596
土 木 費	1,239,464
消 防 費	415,209
教 育 費	1,573,003
災 害 復 旧 費	1,039
公 債 費	1,876,792
諸 支 出 金	400,003
予 備 費	10,000
歳 出 合 計	11,113,000

特別会計予算歳入歳出

(単位：千円)

国民健康保険事業	2,244,216
老人保健事業	2,740,247
簡易水道事業	408,035
下水道事業	364,816
農業集落排水事業	215,814

一般・特別会計

総額 170億8,612万8千円

前年比 4.87%減の緊縮予算

台野広場でまつりを行う
206万4千円

▼ジャズコンサート開催
仙南総合運動公園に特設ステージを設けジャズコンサートをを行う
236万6千円

土木費関連事業

▼道路新設改良事業 幹線道路7路線の改良舗装工事や集落間のアクセス道路整備などに
5億4千849万5千円

▼公営住宅建設事業 定

住促進を目的に、塚地区に町営住宅3棟を建設する
8千40万4千円

▼六郷東部簡易水道事業
配水管2千891メートルを敷設する
1億24万1千円

▼公共下水道事業 下水道管3千95メートルを敷設する
2億1千342万円

消防費関連事業

▼消防設備事業 緊急時の連絡体制強化で役場庁舎にアマチュア無線局を設置し、未整備地区に消火栓を設置する
666万円

教育費関連事業

▼確かな学力定着事業 「確かな学力」育成と個性・想像力豊かな児童生徒の育成を目的に、基礎学力定着度調査費や複式授業解消のための講師を配置する
2千903万1千円

▼文化財保護事業 遺跡

の記録保存を行い郷土理解が深まるよう、県指定史跡「本堂城跡」などの発掘調査や千屋断層保存整備施設を検討する
2千412万6千円

▼給食施設環境整備事業
19年度六郷学校給食センターを廃止することに伴い、仙南・千畑学校給食センターの施設・設備の充実を図る
1千903万2千円

どう使う、新年度予算

3月9日、平成十八年度当初予算の総括質疑が行われました。
その主な内容を要約してお伝えします。

歳入全般

熊谷良夫議員 サテライ
ト六郷の周辺環境整備費
負担金890万9千円の
使途は。

町長公室長 目的を限定
せず、一般会計での歳入
として扱う。

熊谷隆一議員 農業者年
基金金業務受託収入での
加入状況は。

農業委員会事務局長 新
制度112名、旧制度3
20名が加入している。

高橋猛議員 三位一体改
革での、国庫補助負担金
削減と税源移譲は一致し
ているか。また、留保財
源の見直しは。

総務課長 個々に疑問点
もあるが、ある程度の税

歳出全般

源は確保したと思う。留
保分は、4億円ほどだが
流動的だ。

●総務費

熊谷良夫議員 定住情報
提供事業の、物件リスト
作成や情報発信をどう進
めるか。

企画課長 町内の空き家、
空き地などの所有者から
申し込んでいただき、ホ
ームページ上で情報提供
する。

吉野久議員 住民の自主
的参画事業がいくつかあ
るが、どう推進するか。

町長公室長 各地域・団
体の総合的なボランティア
制度を創設し進める。

福田守議員 国体リハー

サル大会の運営は予算的
に大丈夫か。また、国体
財源について、もっと県
に働きかけるべきだ。

国体準備室長 業務をで
きるだけ簡素な形で進め
て予算執行する。

町長 町の要望に加え町
村会でも要望していく。

飛澤龍右工門議員 自転
車ロードレースコースの
大荒田・高田線の信号機
設置予定と、民宿の対応
状況は。

住民生活課長 信号機設
置は厳しい状況で、通行
止めでの規制を考える。

国体準備室長 民宿はバ
トミントンだけが、4
50人の選手に対し現在
322人の受け入れ家庭
を確保している。

泉美和子議員 町内循環
バスの検討状況は。

企画課長 様々な検証を
行い、5年以内に検討す
る。



東北総体より

中村美智男議員 出合い
の場創出事業での、結婚
相談は誰が担当するか。

町長公室長 町長公室の
全職員で、全ての相談に
応ずる。

中村美智男議員 ふるさ
と会の同行に、生産者と
販売員を増やすべきだ。

企画課長 それぞれの、
ふるさと会の方々と協議
を進めたい。

泉美和子議員 町内循環
バスの検討状況は。

企画課長 様々な検証を
行い、5年以内に検討す
る。

●民生費

鈴木一議員 透析通院者
の人数と支援内容は。
福祉保健課長 現在40名
で、月額6千円だ。

●農林水産業費

熊谷隆一議員 美郷こだ
わり米の販売環境は。

農政課長 JAが主体で、
販促に農政課職員も同行
する。

武藤威議員 森林整備の
内容は。

農政課長 対象森林50
0haの内、毎年100ha
を調査対象として仙北市
森林組合に委託している。

福田守議員 集落営農で
の、設備・機械導入補助
の考えは。

町長 国や県の制度へ、
かさ上げ助成する。

飛澤龍右工門議員 ブラ
ンド化での取り組みと、
販売での企画・農政課の
連携をどうする。

農政課長 旧町村の経緯

を踏まえ、12品目をブラ
ンド化できるよう推進す
る。また、販売は商工観
光・企画課などと協議し
進めたい。

企画課長 美郷の味販売
交流促進事業として大田
区を対象に販売していく。

中村美智男議員 農業用
ビニールの、廃棄に対す
る補助の考えはないか。

農政課長 旧仙南で処理
費の3分の1を補助して
いたが、他では行われず
ルートが確立されたこと
もあり考えていない。

●商工費

熊谷隆一議員 真木真昼
を美しくする会の活動状
況は。

商工観光課長 県登録の
保護員3名により、登山
道の枝払いや自然保護の
啓発活動を行っている。

吉野久議員 地販地消推
進事業の進め方は。

商工観光課長 町民への
地域内消費拡大の意識啓

発と、新しい美郷商品を創り出す意識開発を主眼にプラン策定する。

◆ **高橋正治議員** 大田区への地産都消を推進すべきだ。

◆ **町長** 18年度に取り組みの萌芽を創りたい。

◆ **土木費**

◆ **吉野久議員** 公営住宅建設で今年度12棟のうち3棟を建設するが、団塊世代のAターンを視野にもっと増やすべきだ。

◆ **町長** 国庫交付金事業で交付金の枠内での建設だが、増額があれば前倒しで実施したい。

◆ **戸沢勉議員** 千畑カントリーパーク整備事業の事業年度と、今年度事業は。◆ **商工観光課長** 19年度までの計画で、18年度はマレットゴルフ場、駐車場、トイレ2箇所を工事する。

◆ **消防費**

◆ **武藤威議員** 消火栓の水

圧は大丈夫か。

◆ **住民生活課長** 設置基準があるので確保していると思うが、一部地区については分団の方に確認をお願いしている。

◆ **戸沢藤一議員** 今後の防火水槽の設置計画は。

◆ **住民生活課長** 水道未普及地域を主体に計画する。

◆ **教育費**

◆ **熊谷良夫議員** アスパルの中学校体育館転用は可能か。また、渡り廊下などの設備をどうするか。◆ **町長** 体育館の跡地利用計画は。

◆ **学務課長** 調整が必要だが、転用は可能と考えている。また渡り廊下は、支障があれば学校側と協議し検討する。跡地は、19年国体もあり整地し駐車場として活用したい。

◆ **飛澤龍石工門議員** 国体終了後はどうするか。

◆ **学務課長** 現在、PTA時など駐車場不足と聞き、



中学校体育館に転用されるアスパル

◆ **吉野久議員** 用途変更の場合、練り上げ償還が伴わないか。◆ **町長** 財政上、社会体育施設のままでの活用という考え方もあるが。

◆ **学務課長** 練り上げ償還は、国・県から必要ないとの回答を得ている。◆ **中学校の体育館として管理する方が望ましいと考える。**

◆ **泉美和子議員** 今までア

◆ **学務課長** 美郷町全体での給食センターと位置づけ、18年度中に生徒減などの将来を見据えながら今後の対応を考える。

◆ **鈴木一議員** 学校給食の弁当容器の更新は。

◆ **学務課長** 毎日の使用であり、時期を見きわめスムーズな更新を心がける。

◆ **泉美和子議員** 六郷給食センターの廃止に伴って、職員への待遇後退や業者への外注などすべきではないか。

◆ **泉美和子議員** 六郷給食センターの廃止に伴って、職員への待遇後退や業者への外注などすべきではないか。

◆ **泉美和子議員** 六郷給食センターの廃止に伴って、職員への待遇後退や業者への外注などすべきではないか。



近代的な設備の千畑学校給食センター

◆ **学務課長** 美郷町全体での給食センターと位置づけ、18年度中に生徒減などの将来を見据えながら今後の対応を考える。

◆ **福田守議員** 各種スポーツ大会の委託先と、委託費の減額理由は。

◆ **社会教育課長** 委託先は美郷町体育協会。◆ **町長** 今年度は、合併当初大会でトロ

◆ **学務課長** 美郷町全体での給食センターと位置づけ、18年度中に生徒減などの将来を見据えながら今後の対応を考える。

◆ **武藤威議員** 幼稚園入園者が62人減るが、職員はどうなるか。

◆ **幼児教育課長** 60人の幼稚園児が保育園児になったという事で職員の配置換えを行うが、員数は変わらない。

◆ **財政環境はますます厳しく緊縮型を余儀なくされている。しかし、本予算は住民サービス・町民福祉の増進を図るために経常経費の抑制に努め、各項目の随所に創意工夫を施した提案であり評価すべきだ。**

◆ **熊谷良夫議員** 美郷町総合計画の着実な推進と、一層の一体感を醸成するため重点配慮した予算編成であり、子育て支援や人口増につながる宅地・住宅政策、農業を中心とした地場産業振興にも配慮がみられる。

一般会計予算討論

反対討論

賛成討論

◆ **深沢義一議員** 依然として続くデフレ状況の中、

ファイヤーなどの準備費用が多かったが、新年度はその分減る予算だ。

奨学資金条例、賛成多数で可決

3月定例会で可決された、その他の議案の主な質疑を要約しお伝えします。

■奨学資金条例の一部改

正 泉美和子議員 この不況下、社会状況を勘案して制度をもっと充実していくべきだ。

学務課長 奨学金は、あくまで入学に要する経費と考えている。
吉野議員 少子高齢化の時代、子供たちへの支援を惜しむべきではない。

学務課長 三位一体改革など財政との兼ね合いもあり、このようにさせていたきたい。
町長 今の財政では、予算の枠を設けず青天井という訳にはいかない。

■反対討論

泉美和子議員 経済的理由で、次代を担う子供たちが就学できないことがあってはならず、この制度の充実こそが求められていると思う。

■賛成討論

熊谷隆一議員 財政難の中、町は合併後の新たな行政サービスを展開し、教育でも地域バランスを考慮して事業計画を立てている。この改正でも貸付窓口の拡大に配慮して

おり、教育予算全体を勘案すれば妥当と考える。

■職員給与条例の一部改

正 泉美和子議員 勤務成績に基づく昇給制度の導入は、どういう基準で誰がどのように決めるのか。
総務課長 人事院勧告に沿って適用し、評価は任命権者が行う。

泉美和子議員 公務員は、民間労働者のように販売成績を上げる性質のものではなく、この制度はなじまないと思うが。
総務課長 5段階評価方式で行うが、難しい問題もある。任命権者が、それらの評価・評定をしながら行う。

吉野議員 この改正で、減給になる職員はいるか。また、実際査定する上司との人間関係が変にならないか。
総務課長 全体で2・6%下がるが、附則で5年間保証し実質下がらない。査定は、町長が管理

職の意向を十分反映したうえで判断する。

助役 最初に評価ありきではなく、達成度を重視していきたい。これが、人事効果につながるかと考えている。

武藤威議員 いくら頑張っても達成できないものもある。どういう観点でその評価をするか。
助役 各セクションの、細部に亘る項目の洗い出しをし、それを評価の物差しにしたい。

■反対討論

泉美和子議員 今回の給与改定は地域間格差をもたらし、地域経済に与える影響も大きい。成績主義賃金の導入は、全体の奉仕者である公務員労働になじまないと考える。

■雁の里山本公園設置条例の一部改正

齊藤新一郎議員 建設中の管理休憩棟は、どういう目的のものか。
商工観光課長 冬季のク



うれしい瞬間―'06年高校入試合格発表より
(写真と記事に関連はありません)



パークゴルフ管理休憩棟

ロスカントリースキヤー、夏季のパークゴルフなどの利用者、また地域住民のイベント開催にも利用できる休憩施設だ。
深沢義一議員 パークゴルフ場をできるだけ多くの町民が活用できるように、小・中学生の使用料金を無料にできないか。
商工観光課長 今現在は考えていないが、いずれ町内公園施設の見直しを諮る時期がくると思うので、その段階で検討する。

■犯罪被害者等基本条例の制定

齊藤新一郎議員 基本理念は県と同じか、町独自のものか。また、交通事故にも適用されるか。

住民生活課長 国・県に準じた理念だ。交通事故については、現段階で考えていない。

■工事請負契約の一部変更

森元淑雄議員 この工期変更の理由が、取り付け道路改良のため地権者との協議が遅れたとの説明だが、詳しい内容は。

建設課長 最初の説明会で了解を得ていたが、詳細に入りなかなか地権者の理解を得られなかった。

■平成十七年度一般会計補正予算

熊谷良夫議員 今回、歳入に計上した地方交付税留保分1億4千600万円を充てれば、無理に町債1億7千万円を起こす

必要もないと思うが。

総務課長 町債は年度当初の事業財源となり、償還の一部が交付税算入されるなどすべて不利なものではない。

高橋猛議員 繰越金は、財政法上2分の1を財調に積み立てる。健全財政を目指す観点から、年度末、ある程度の予備費計上が必要と思うが。

総務課長 年度途中で最終額は確定しないが、指摘のとおりできるだけ基金にまわしたい。

高橋猛議員 今回、市町村道に対し初めて除雪費補助があった。除雪は経常的経費なので、毎年の国庫補助を要望できないか。

建設課長 特別交付税では、過去5カ年平均の積算積雪量の1.5倍、除雪費差額190万円以上など採択要件があるが、一般交付税での要望も検討する。

歳出

熊谷良夫議員 繰越した耐震補強工事の時期と、土木費での繰越し理由は。

学務課長 千畑中は校舎と体育館があり長引くが、安全面から東根・千屋小とともに夏休みに集中して行いたい。

建設課長 用地交渉が長引いたもの、地権者の合

意が得られなかったものの、電柱移設に時間がかかったものなどだ。

熊谷良夫議員 生活バス路線維持費補助金の県や町村ごとの負担割合と、地域審議会の協議内容は。

企画課長 運行距離数により町村ごとに分担して

いる。審議会は毎年6月行うが、学生や買い物客に配慮した運行時間を要望している。

平成十七年度簡易水道特別会計補正予算 飛澤龍右工門議員 羽貫谷地の水源ボーリング地選定は、地域と協議した

陳情

今定例会では、陳情2件が総務委員会に付託され、1件を採択し1件を継続審査としました。

採択としました
●地域別最低賃金の引き上げと最低賃金制度の改正を求める陳情

秋田県労働組合総連合 議長 日野 充

●継続審査としました
●公共サービスの容易な民間開放は行わず、充実を求める意見書提出に関する陳情

秋田県労働組合総連合 議長 日野 充

結果か。

建設課長 協議はしたが、場所の選定についてはしていない。

飛澤議員 行政として、今後も地域住民への説明が大切だと考える。町長 地域との情報の共有化に留意したい。

議会の動き

- 2月
 - 1日 第1回議会臨時会 議会全員協議会
 - 2日 教育民生常任委員会(3日)
 - 23日 議会運営委員会
 - 27日 議会全員協議会 議会広報特別委員会
- 3月
 - 1日 第2回議会定例会(9日)
 - 6日 総務常任委員会 議会広報特別委員会
 - 23日 第3回議会臨時会 議会広報特別委員会
 - 4月
 - 10日 議会広報特別委員会
 - 14日 議会広報特別委員会

10人の議員が

町政を質す

ただ

質問 水環境保全が急務だ

環境保全の推進を図りたい

答弁



武藤 威 議員

つの試みではないか。また、水路の改良工事を考えるはないか町長に伺う。

明日を担う子供たちに、失いかけている自然に対する関心を深め、歴史をひもときながら、ふるさとを愛する心を養う総合学習が必要だ。

質問 今、水環境の保全対策が急務になっていると考える。材木関係の低迷で山に手を加えられなくなり、圃場整備や、水路の三面コンクリート化で水位の低下、水不足が年々進んでいる状況である。

町の防災、融雪、井戸、清水などの生活環境用水など、深刻になっている。町民こそって、環境保全に関心を持ち、考えなければならぬと思う。水環境について、広く町民の理解を得るため、標語、ポスターの公募も一

山は保水の役目をし、水田を潤し環境保全の役割をしてきた。ダム、ため池は大雨どき、洪水を一時的に貯水して防災の役割を果たしてきた。せきは生活用水として、また清水など地域住民の貴重な財産をうるおした。



そうした中で、土地改良区施設の役割を知っていただきながら農業施設めぐりなどもよいと思うし、農業体験を通して親子のふれあいの中で農業の大切さ、水の大切さを知ってもらうのもよいと思う。

教育長からは、水環境学習を通じて子供たちに水の必要さ、ありがたさ、この町に生まれてきてよかったなど言えるような教育方針などを伺いたい。

答弁 町長

標語の募集などについては、各団体との連携を図った上で重要な啓発活動であると認識しており、21世紀土地改良区創造運動の中で活動が展開できないかを模索し、土地改良区の協力を得て協議してまいりたい。

水路の改修工事は、現在町内で実施している事業で、一部環境保全型排水フリーダムを使用したものや、石積み水路を整備して生態系に配慮した事例もある。今後、できる範囲の中で町民理解のもとに、町としての支援策を講じる。

また、来年度水環境保全を推進する観点で、上流域に不法投棄を防止する不法投棄監視員や清掃ボランティアの募集など、町民が参画した具体活動を活性化させたい。中下流域では、上下水道事業の推進、河川環境保全の推進を行い、広報や美郷フェスタを通じて町民意識の啓発に努めている。

答弁 教育長

教育委員会では、ふる

さとを題材にした社会科副読本を活用し、自然環境、歴史、水環境、水田の広がり、土地改良区の役割など、ふるさと学習に努めている。新年度より「私たちの美郷町」という副読本を活用する予定だ。

総合学習では郷土の自然や文化、人々の営みなどをテーマに水田を借り受け、稲作体験活動、学校農園にサツマイモ、トマトなどを植えつける農業体験学習、清水やイバラトミヨの生息状況を調べる学習などを実施している。

子供たちの体験学習は、次代を担う人材の育成につながるものと思うし、環境保全の大切さを知ることには大きな効果があると考える。

質問 少子化に歯止めを

重要課題として位置づけられている

答弁



中村美智男議員



美郷町の明日を担う子供たち

質問

少子化問題と縁組対策だが、秋田県を見ると出生率が全国最下位という状況の中にあり、美郷町の将来を見据えた上でも非常に重要な課題になってくと思う。

また、人口減少に歯止めがかからず激減していく状況の中で、美郷町の人口の推移を見ても10年後には人口が2万人を切るという状況にあり、特に年少人口が2千人という少子化になるとも予想されている。

将来この生産労働人口の減少により、美郷町全体の先細りを意味する少子化問題が目前に来ており、今この少子化問題に歯止めをかけなければ、

町のさまざまな分野に影響がある。

私は、この少子化を考える上で、原点は縁組、あるいは結婚問題と考える。町は、この縁組問題を重要課題と位置づけるがらもっと力を注いでいくべきだ。現在、町の事業で出会いの場創出事業を進めているが、具体的な効果があらわれていない。国では、少子化担当大臣を置き、重要対策として、町として、改めて結婚相談員の委託、あるいは縁組を含めた少子化対策室を設置し、早期にこの問題に歯止めをかけるべきと思うが町長の考えを問う。

答弁 町長

結婚問題や、少子化問題は町としても大きな課題として位置づけており、そのため出会いの場創出や子育て支援に係る各般の施策を鋭意展開しているところだ。

結婚問題については、

以前、旧町村で結婚相談員を配置して取り組んできたが、相談員の方々の高齢化や個人情報保護の問題、さらには結婚適齢期の方々の縁組活動に対する意識の変化などを勘案し、合併に伴い廃止した経緯がある。したがって、現段階では結婚相談員を復活させる考えはないが、男女の出会いにつながる機会創出には意を払ってまいりたい。

少子化対策室の設置は、市町村での事例があまりない。今後、数少ない事例を調査し、取り組みの評価を把握して検討したい。

堆肥センターで生ごみ処理も併用はむずかしい

質問

今年度着工予定となっている堆肥センターの建設計画は、畜産農家の環境条件の改善と有機的機

能を還元していくという形の中で、消費者ニーズに応じた安心・安全なサービスの生産販売ができることに対して大きく寄与する循環型施設とされている。この堆肥センターと併設して、生ごみ処理施設も建設できれば非常に合理的だと思う。生ごみを堆肥化して再資源化すれば、住民負担の軽減にもつながると思うが町長の考えを伺う。

答弁 町長

町から生ずる一般廃棄物については、大仙美郷環境事業組合で建設したクリーンセンターで処理されており、堆肥センターへ生ごみ処理施設を併設することは難しい。さらに、生ごみの堆肥化については、堆肥の品質・成分の安定化などの課題もある。

質問 罹災者に条例の拡大適用を

適用外が妥当 答弁

名、雪おろし及び除雪作業中の病死が2名だ。条例の適用については、

地下水への意識改革を図れ 節水が重要だ

質問

今回の豪雪では、水の浸透量と揚水量のバランスが崩れ、清水や家庭の井戸枯れが目についた。冬期間の揚水量は、今

答弁 町長

現在4箇所ある地下水涵養池を、適切に維持することが第一と考える。仮に、増設するにしても新たな水確保が必要だが、用水を管理する土地改良区と協議して見直しを検討したい。

ダムの放水は、貯水量や土砂の流入出、関田頭首工までの水利権の問題などで非常に難しい。

水資源の保全活動は、揚水量の抑制が枯渇に直結し、節水の働きかけが重要だ。行政と地域住民が一体となり意識啓蒙を図りながら進めたい。

消雪道路の改良を

順次対応する

質問

今冬の除雪体制は、迅速できめ細かく、状況に応じての排雪作業を評価する。しかし、旧角六線消雪道路は、改良・改善点があったと考え提案する。

①全線のノズルを、道路面と同じ高さのものに改良する。②道路面を再舗装し、散水した水が偏らないよう勾配を均一化する。③付近の家庭井戸へ影響している水源を、西部の郊外に新設する。④今後、南北の側溝改良工事は、勾配や深さ、東西側溝との連携に配慮し、将来流雪溝に使用できるよう全体計画と年次計画を立てて行う。またその水源を、消火栓利用や清水の流末水に求め、地下水に頼らない設計とする。

答弁 町長

①修繕が必要になった



吉野 久議員

質問

町は「平成18年豪雪」を顕著な災害と認識し、検証を重ねて今後の町づくりに活かすべきだ。

美郷町内での人的被災や、家屋・農業施設・果樹などの被害状況はどうか。また、今回の豪雪による罹災者は「美郷町災害弔慰金の支給等に関する

る条例」などに該当するか。そして、該当しないなら条例を拡大適用する考えはないか。

答弁 町長

3月6日時点の被害状況は、パイプハウス全壊が2棟、作業小屋倒壊が1棟、倒木や落雪による車などへの被害が13件、除雪作業中の負傷が9

質問 町全体の道路網の総点検、自己診断は

施設管理の徹底を図りたい

答弁

いても街路灯、防犯灯およびカーブミラーの設置などを実施してきている。特に交通安全にかかわる施設整備については、

大仙警察署、交通安全協会と住民生活課、建設課と共同で現地点検を実施しているほか、日常の道路パトロールを通じて現況把握し対応に努めている。

今後、整備箇所のマップピングなどを行ない、施設管理の徹底を期してまいりたい。

地下水の保全対策は

新たな水確保に努める

質問

町全体が奥羽山脈を源として発達した扇状地上にあり、地下水を汲み上げ生活水として利用している我が美郷町。

その地下水が今冬は急激な変化をなした。

雪の量もさることながら、低気温の日が長く続き表面水の地下浸透が少なくなつたためと、消雪水の利用増が拍車をかけたものだと思える。

六郷地区の酒造店では地下水低下が著しく、酒づくりに大変な苦勞をしたとの声も聞いている。今後とも地下水の枯渇化が増え進むことが予想される。したがって早急に涵養域の調査をしてみるべきと思うが、町としてどう認識しているのか伺う。

上旬の米町の地下水位記録計でも昨年の同時期より約90センチの水位低下が見られた。

現在、地下水涵養対策として、町内に4カ所の地下水涵養池がある。これを更に拡充するには、

新たな水確保が必要となるが可能かどうか関係機関と協議し、その見通しを持ってから各般の調査に入るべきと認識している。

しかしながら、生活の根幹を支える飲料水は、基本的に安定供給が可能な水道施設が望ましいと考えている。水道未普及地域の整備について議論を深めていくほか、加入促進に努めてまいりたい。

また、こうした取り組みが町の大切な自然環境の資源である湧水をも守る取り組みにつながることを考えている。



森元淑雄議員

質問

道路は、豊かな暮らしの実現と均衡ある地域の発展を図るための根幹をなすものである。

冬期間の交通を確保する方策では、消雪、融雪、流雪といった地域の特性を考慮した施策を進めると、新町の建設計画ではうたっている。

魅力的で活力ある地域づくりのため、本当に必要な道路かどうかも含め、交通安全施設、案内表示、街路灯、防犯灯、カーブミラーなど、総点

検を自己診断すべきと思うが町としての考えを伺う。

答弁 町長

現在の美郷町の道路は、旧町村で必要とした道路を整備して現在に至っている。

今後、美郷町で計画・整備する道路については、美郷町全体での視点での必要性を十分に議論したい。

また、そうした道路に附帯する各種施設については、地域からの要望も踏まえながら、17年度にお

側溝への取水を

検討する

質問

今冬の降雪は昭和48・49年の豪雪をも凌ぐと言われているが、住宅密集地は特に大変なものがあつたと思う。

雪を投げる場所がなく、道路に捨てる、それを除雪ドーザがまた運んでくる、このような悪循環の繰り返し。そんな中で六郷地区の方々から寄せられた声だが、道路側溝に水が流れているとどうも助かるものかと言ふことだ。冬期間消雪機

能をもつ側溝整備が必要と考える。また、その際側溝などに取水できる水源地、水源量および末端

のルートなどを調査してみることが必要と思う。

答弁 町長

基本的に道路側溝は、路面排水対応の設計となつているので、そうした機能を持たせるには側溝規格の確認および改良などの対応が必要となる。

また、側溝に取水するには、地域ごとの水系の違い、土地改良区との維持管理上の問題、下流部の状況など調査を行うことは現実的に難しいと考えている。

地域から具体的な要望に対し、そうした所要の対応をしたい。

答弁 町長

ご指摘のとおり、今冬は早期の降雪および根雪によって雨水の地下浸透が少なく、また、揚水量の増加にともない、1月

質問 技能功労者表彰制度の創設を

「町の日」で表彰を考える

答弁



熊谷良夫議員

質問

美郷町の基幹産業である農業を中心とした産業振興策のひとつとして、美郷町技能功労者表彰制度の制定を望む。

今、マスクミで騒がれているホリエモンなどの株価操作の例もあるように、日本人の美徳である勤勉、額に汗して働くということが軽視される風潮にある。改めてその大切さを認識させる時期にきているのではないか。

当町における企業の誘致も一段落し、若者の雇用の確保が難しくなってきた。農業を含めた地域産業を育成し、地域の雇用の機会の創設を図り、若者の地域の定着を進めるために魅力ある職場づくりの一環として提案する。

現在、国で行っている

技能検定制度では、大工や左官などの建設関係だけでなく、和裁や洋裁、またお菓子づくりや料理部門と多岐にわたっている。長年その道一筋で頑張ってきたら、後継者の育成にご尽力された方々を表彰して、広くその業績を知らせることにより、その職業に対する新たな認識を持っていただくことができる。また後継者にとっても身近にそ



合併記念式典より

の目標を知ることにより、技術の向上や意欲も湧いてくると思う。今進められている地産地消での、地場の食材を地域の皆様に消費していただくためには、加工技術の向上も必要になってくると思われる。

美郷町技能功労者表彰の制度は、すばらしい料理、加工品をつくる方々の育成にも役立つ制度だと思ふ。また、この制度

答弁

町長

ができることにより県表彰、全国表彰への上申の道が大きく開ける。技能グランプリでの優勝者や現代の名工認定者に対する美郷町独自の表彰の受け皿にもなると思われ。以上のような理由で美郷町技能功労者表彰制度の制定を望むが、町長の見解を伺う。

県内市町村では、大仙市や横手市など比較的就

業人口の多い市で、制度化しているようだが、就業者が少ない町村においては、独自に制度化している事例がない状況だ。現在、技能にすぐれた功労のある方を表彰する制度は、各市町村からの推薦をもって審査が行われる知事表彰や厚生労働大臣表彰の制度があるが、ご指摘の趣旨もまさにそのとおりだ。

町では、十八年度に町が誕生した十一月一日を「町の日」と定めるとともに、その記念行事を実施したいと考えているが、その際、あわせて各般にわたり町勢の進行に寄与され、町民の模範と認められる行為のあった方々などを表彰したいと考えている。

現段階では、表彰の種類、分野、基準などの詳細は未定だが、スポーツや学術、文化、技能の各分野において活躍し高い評価を受けている方も対象にしたいと考えている。

塚II住宅は設計コンペし地元産杉の活用を

今後の参考にしたい

答弁



戸沢藤一議員



平成15年度に整備された町営塚住宅

質問

秋田県産杉の需要を拡大し、森林の持つ多面的機能を維持し、併せて林業振興を目的に、県ではこれまでの角材プレゼント事業や新たな事業としての内装材プレゼント事業が行われている。

美郷町の町有林は約500ha程あり、中には伐期に達した杉も相当数ある。塚II住宅建設事業は、町内の建築士による設計

質問

コンペや町有林を間伐して利用するなど、美郷町にこだわった進め方をすべきだと思いが町長の見解を伺う。

答弁 町長

塚II住宅は、合併前の平成16年採択され、12棟が建設される予定で、既に基本設計と実施設計図書ができています。

県産の秋田杉製品は、かねてより使用してきている。町有林については、樹齢や用材にする経費、活用方法などを調査検討していく。設計コンペは、今後の町営住宅整備の参考にしたい。

観光客誘致—海外客視野に

地域経済が潤う—その視点で検討する

質問

この秋に県内全市町村長が韓国を訪問し、観光客の誘致、経済交流などトップセールスを行う計画があるようだ。美郷町には、竹うちや

温泉、清水、ラベンダー、花菖蒲など、魅力ある観光資源があり、11.5万人ほどの観光客が訪れているが、近隣の市と連携し、新たな観光ルート

を組むなどして、海外客を

質問

含めたさらなる誘致を図るべきだ。それに現状では、各施設（特にラベンダー園付近）のアクセス道路整備が不十分なので、早めの対策が必要ではないか。

答弁 町長

観光振興については、従来の観光資源やイベント

育児の相談窓口は

要保護児童対策協議会で対応

質問

美郷町では、子ども見まもり隊の結成やステッカーの貼付などにより、地域全体で子供を守るという気運が高まりつつある。しかし全国各地では、自分の子供に対する虐待も起きている。

育児に悩む親たちや外国から来ている母親が気軽に相談できる窓口が必要と考えるが、町の対応を教育長に伺う。

答弁 教育長

子ども見まもり隊ボランティア会員は410人、

車両は811台の協力を得ている。

児童虐待など子育てに関する問題については、早めの情報把握、相談、支援が重要だ。町では教育相談員の配置や幼保一体施設での育児相談の随時受付、情報の収集、相談体制の整備を図っているが、さらに内容を深めたい。

なお、昨年10月美郷町要保護児童対策地域協議会が設立されており、その中で早期発見、適切な指導、支援を行っていく。

質問 障害者自立支援法の実施と町の対応は

国の方針に沿って対応する

答井



泉美和子議員

質問

4月から実施される障害者自立支援法は、障害が重く、制度利用の多い人ほど負担が大きくなるという応益負担の導入で、障害者の自立を支援するところか、逆に障害者とその家族に大幅な負担増を強い、生きる権利を奪うと強い反対の声も上がっており、障害者福祉を大きく変える法律だ。

例えば、ホームヘルプサービスの場合、これま

での応益負担では、費用を払っていたのは利用者の5%程度で、残り95%

国は低所得者に配慮するとして、所得に応じた



障害者デイサービス サンワーク六郷での創作活動

の人は無料で済んでいた。今回の自立支援法では、生活保護世帯以外の人はすべて一割負担とされ、一挙に1万5千円から4万円以上の負担増となる。身体・知的障害者施設での食費・光熱水費も、これまで利用者の自己負担はなかったが、全額自己負担となる。

四段階の月額上限額を設けているが、それでも負担増になるもので、このままでは重い負担のために必要なサービスを受けられなくなりかねない。福祉作業所に通所している方から、これ以上負担が増えたら通いもやめなければならぬといった声が寄せられている。

横浜市は、低所得者の自己負担分を全額助成し、京都市は国基準の負担額を半額にする独自の支援策を行う。当町でも、定率自己負担が障害者サービスの利用抑制や後退につながるまいよう、国の軽減策に加えて町独自の支援策を講ずるべきではないか。

答井 町長

障害者自立支援法において負担額減額の設定や、定率負担の個別減免など負担軽減策が図られており、現段階で町独自の軽減策は考えていない。

応益負担の導入について

さまざまな議論がある

質問

障害者が、人間として当たり前前に生活するために必要な支援を益とみなした応益負担の導入は、障害者福祉とは相入れないもので、この事が一番

の問題だと思うが、町長の認識は。

答井 町長

応益応益についてはさまざまな議論があり、障害者福祉に限った話で、応益がいいとか応益がいいとか短兵急にこの場で見解を述べるべきではないと考える。

町独自の軽減策を

考えていない

質問

介護保険については、これまでも町独自の軽減策を求めてきたが、とりわけ保険料が国の制約のもとで大変難しいことも承知している。

なるものだ。わずかな年金から保険料が天引きされ、これでは生きていけないという高齢者の声が多く寄せられている。こういうときだからこそ町独自の軽減策を実施すべきではないか。

答井 町長

しかし、全国では独自の軽減策を実施している自治体が、保険料で77自治体、利用料で581自治体ある。4月から65歳以上の介護保険料が値上げされるが、高齢者にとって税制改正による影響や、年金の削減など大きな負担増に

保険料については、現在の5段階区分から2段階を細分化し、より低所得者に配慮した6段階の保険料設定となることから、町独自の軽減策は考えていない。

質問 食育—どんな政策メニューで

幼少期からの積み重ねが大切

答弁



熊谷隆一議員



楽しい給食

質問

衛生的な生活環境や高度化し気軽に受診できる医療環境、米を中心としたバランスのとれた日本型の食生活などが相まって、日本人の平均寿命は世界一といわれている。

しかし最近では、栄養バランスの偏り、生活習慣病の増加、食料自給率の低下、食べ残しによる食料資源浪費の問題が指摘されており、牛肉のBSEやO-157など、食の安全性にも関心が高まっている。

国民が食について考え、健全で安全な食生活が営めるために食育基本法が制定された。これまでも「医食同源」「身土不二」といった言葉があり、「地産地消」「スローフード」などの取り組みもされてきている。

食育には、食習慣の事だけでなく、あいさつや早寝早起きなど、正しい

生活習慣を身につけさせる意味もあるし、人間にとって一番大切な健康を守るために大事な事業であると考える。

食育については、昨年からの「朝ごはん食べよう運動」に始まり、18年度は各種事業が計画されているが、全体計画や具体的事業内容、周知はどう行うか伺いたい。また、息の長い取り組みを願いたい。

答弁 町長

生活習慣病を予防し、健康な生活を送るためには、正しい食習慣が基本だ。大人になってからの改善は難しいので、幼少期からの積み重ねが大切であり、長期的な視点で継続して取り組む。

18年度事業として、幼稚園、保育園での給食は、幼児の骨格形成などの発育に配慮した、安全でバランスの取れた完全給食を提供したい。保護者に

対しては「食の国あきた推進運動」と併せて、家庭教育学級で食育に関する講演会を開く。小学校では、保護者と一緒になつた「レッツチャレンジ健やかクッキング教室」を開催し、食べ物に関する五つの力が身につくようにしたい。各学校給食センターでは、美郷の食材を多用した「まるごと美郷給食」を実施する。

食育推進の周知は、母子手帳交付時や乳幼児健診時の栄養指導、食生活改善グループ活動、健康生活推進員による啓蒙普及活動、美郷フェスタでのイベント・広報「美郷」やホームページによる正しい食生活のPRなど、年間を通じ繰り返して実施する。

この事業については、食糧生産を担う農業の意義についても理解が深まるよう配慮して進めたい。

質問 農業大綱に向けた町の姿勢は

農業経営の発展を目指す

答弁



深沢義一議員

考えるが、こうした事を前面に出しながら大綱実施に向け指導対応していくべきと思うが。

答弁 町長

米、大豆については、国際化に伴う価格の影響を受けやすい作物であるという事を十分に認識し、農家の方々が規模拡大や営農組織を設立することによって、地域の農業や個人の農業経営が発展していくという事を前面に出しながら今後の説明などにあたりたい。

仲介も必要

担当職員を置く

再質問

意向調査なども含め仲介的な対応も必要と思うが。

答弁 町長

利用集積に係るさまざま

質問 農林水産省は、これまでの農政を根本から見直し、担い手に施策を集中させ、19年度からの大綱にその施策を明示したところである。
その背景には、担い手の確保やWTO協定に対する対応が挙げられるが、同時に日本農業の現状を直視した施策でもあり、小規模農家を救うための大綱でもあると考える。
農水省の試算では、1 ha

程の農家が自作した場合の農業所得は7万7千円、10 a当り7千700円程度といった結果となり、組織化した場合のモデルケースでは農機具の共同保有などにより、1 ha当り43万3千円という数値が出されている。
一概にすべてうまくいくとは言えないが、小規模農家を救うという観点に立ち、一定規模以上の面積や協業による営農推進が必須の状況であると

標準小作料金にこまやかな対応を

諸問題が発生した時に行う

また課題というのは、ケース・バイ・ケースの部分が多く、全面的な仲介は難しいものと思う。しかし、町の担当がその道しるべをつけて前に進むよう努力してまいりたい。
また、18年度から農政課内に、集落営農化に向けた専門の担当職員を置きたい。

質問

標準小作料金設定については、これまで3年程度を改定期間としてきたが、大幅な価格の変動、あるいは国の施策の変動がある中で細やかな対応

も必要と思うが。

答弁 農業委員会会長

標準小作料金は、認定後3年程度経過したとき、または生産費、農産物価格などの設定規準となる重要事項に著しく変

料金設定は

適切な設定をする

動が生じた場合に改定を行うことになっており、3年経過後を基本的な改定期としながら、基本となるべき諸問題が発生した場合には改定を行う考えた。

再質問

出し手、受け手どちらにも厳しい状況の中、現在、上田は2万9千円の小作金となっており、現米価では受託者にとって厳しいものとなっている。18年度が改定期と思うが、その料金設定についての考え方を伺う。

答弁 農業委員会会長

平成6年の構造改善局農政部通知の算定方式および、算定業務のための手引きを基に算定している。近隣市町村との整合をとりながら、県の指導助言を受けて適切な標準小作料の設定に努めてまいりたいと考えている。



農作業風景

5人きょうだい そろって入学

3月は卒業シーズン、美郷町内の各小学校や幼稚園で、感動に満ちた卒業式が行われました。美郷町土崎の小林さんの5人きょうだいも、そろって千屋小学校を卒業し千畑中学校へ入学します。3月19日広報委員が自宅におじゃまして、皆さんからお話を伺ってきました。



全員そろった5人きょうだい

平成5年6月15日生まれで、体重は1千195gから1千400g位でしたが、今は身長162cmある子もいて、まだまだ伸び盛りのようです。生まれた順序に、小学校でがんばってきたことや、中学校でやりたい事、将来の夢などを語ってもらいました。

●長女・幹菜さん

小学校では、バスケットボールを頑張ってきた。中学校でもバスケットを頑張りたい。勉強では数学を頑張りたい。将来もバスケット関係の仕事がしたいので小学校の先生になりたい。麻婆豆腐が好きです。

●長男・郷史くん

サッカーと陸上競技を頑張ってきた。中学校にはサッカー部がないので、野球部に入る。頑張りたい科目は英語、将来はプロのサッカー選手になりたい。ラーメンが好きです。

●次女・彬那さん

陸上競技とバスケットを頑張ってきた。中学校でもバスケットを続けたい。頑張る科目は英語と数学です。人の役に立つ仕事かしたいので、将来は薬剤師か女医さんになって、お年寄りや子供など困っている人を助けてあげたい。きのこが嫌い。

●三女・寿理さん

バスケットと陸上競技を頑張ってきた。中学校ではバスケットと英語を頑張りたい。保育園の時の先生がやさしかったので、私も保育士になりたい。スパゲッティが好きです。

●次男・寛くん

サッカーと陸上競技を頑張ってきた。中学校では野球と英語を頑張りたい。将来はベツカムのようなプロサッカー選手になりたい。好きな食べ物はカレーです。

陸上競技では県大会で入賞するなど、親ゆずりのスポーツマンの5人ですが、男の兄弟はおたが

いをかばい合い、女の姉妹はライバル意識がすごいそうです。そんな5人に、父親の孝実さんは「目標を決めて、焦らず進んでほしい」。母親の美智子さんは「時間を上手に使ってほしい」とエールを送りました。また、祖母のミサ子さんは「いろいろ大変だが、健康に育って

くれて有り難い」と語っておられました。取材を終えて帰るとき、玄関の靴の数にあらためてビックリさせられました。靴だけではないでしょうから・・・。真新しい中学校の制服を着た5人は、もう既に中学生の顔でした。大きくはばたけ!!

編集後記



この一年間を振り返ってみて面白い話題といえ、何といってもトリノ五輪女子フィギュアスケートの荒川選手ではないでしょうか。世界を唸らせたイナバウアー、日本勢でただ一個のメダルが金メダル、本当に元気と感動をもらった。また、日本中を感動の渦に巻き込んだワールドベースボールクラシック(WBC)、決

勝戦の7、8、9回は手に汗を握りテレビにかじり付き観戦した。そして世界一となった瞬間はもう鳥肌が立った。本当に凄い選手たちだ。いつの時代でもスポーツは、私達に夢と感動を与えてくれる。新年度も分かりやすく親しみやすい紙面づくりを励んでいきたいと思っております。(森元よしお)